

上部のものは形は中間型で葉脈はネコヤナギにごく近い。苞は長楕円形鋭頭，両面に長軟毛密生し，上半黒色でネコヤナギのそれに近く，腹腺体は形と大きさ共に両親の中間を示し，花柱の長いことと柱頭の形はネコヤナギに傾く。尚この雑種は葉の上面に気孔が多数見られるが，これはネコヤナギに由来したものと思う。

○ホラカグマの新変種 (伊藤 洋) Hiroshi Ito: A new variety of *Ctenitis eatonii* from Ryukyu

一昨年の夏島袋守成氏から一枚の珍しいシダの標本をいただいた。琉球列島西表島の古見岳9合目で1969年7月9日採集されたもので，沖縄から台湾や南シナに分布するホラカグマを小さくしたようなものである。しかしホラカグマの子供とは大分様子が違っているし，文献や標本に当たったところ南シナ・インドシナ・フィリピンあたりにこの手のものがないので，新種かも知れないと考えていた。最近国立科学博物館の中池敏之氏から，同館にも同じ時の採集品が島袋氏から寄贈されていることを聞いたので見せていただいた。中池氏の意見ではホラカグマの亜種ぐらいが適当でないかということであった。そこでこれら2枚の標本を詳しく調べた結果やっとホラカグマの変種ということに落ち着いたので，形の立派な博物館の方の標本を基準とし次のように命名して発表する。図1がその写真(中池氏撮影)であるが，これで見られるとおり，葉の形がホラカグマのような卵状皮針形でなくずっと狭くて細長く延びており，ホラカグマが2回羽状複葉であるのに反しこちらは羽片がほとんど切れ込んでいない。和名は島袋氏が命名された **コミダケシダ** というがあるのでこれを用いる。なお私のところへいただいた一枚は東大資料館へ納めることにした。(東京教育大学植物学教室)

Ctenitis eatonii (Bak. in Hook. et Bak.) Ching in Bull. Fan Mem. Inst. Biol. Bot. 8: 291, 1938.

var. **iriomotensis** H. Ito, var. nov.

Lamina angustiori, pinnis (praeter infimis) oblongis et crenatis a var. *eatonii* differt.

Stipites 6-7.5 cm longi, paleis castaneis setaceis patente vestiti. Laminae gladiato-triangularis 11-12 cm longae pinnatae, pinnis infimis (remotis a pinnis ceteris) maximis 2-2.5 cm longis, triangulari-ovatis, apice obtusis basi cordatis brevissime petiolatis, pinnatifidis, pinnis ceteris oblongis 0.7-1.7 cm longis crenatis vel tenuiter incisus, sessilibus vel ad rachidem decurrentibus. Sori punctati ad costas approximati, indusiis reniforme-rotundatis irregulariter angulatis margine et supra ciliatis, pilis 1-3-cellulatis.

Endemica in insula Iriomote, Ryukyu: in monte Komidake (leg. S. Shimabukuro, 9/VII/1969, No. 277061 in TNS—Holotypus; in TI).

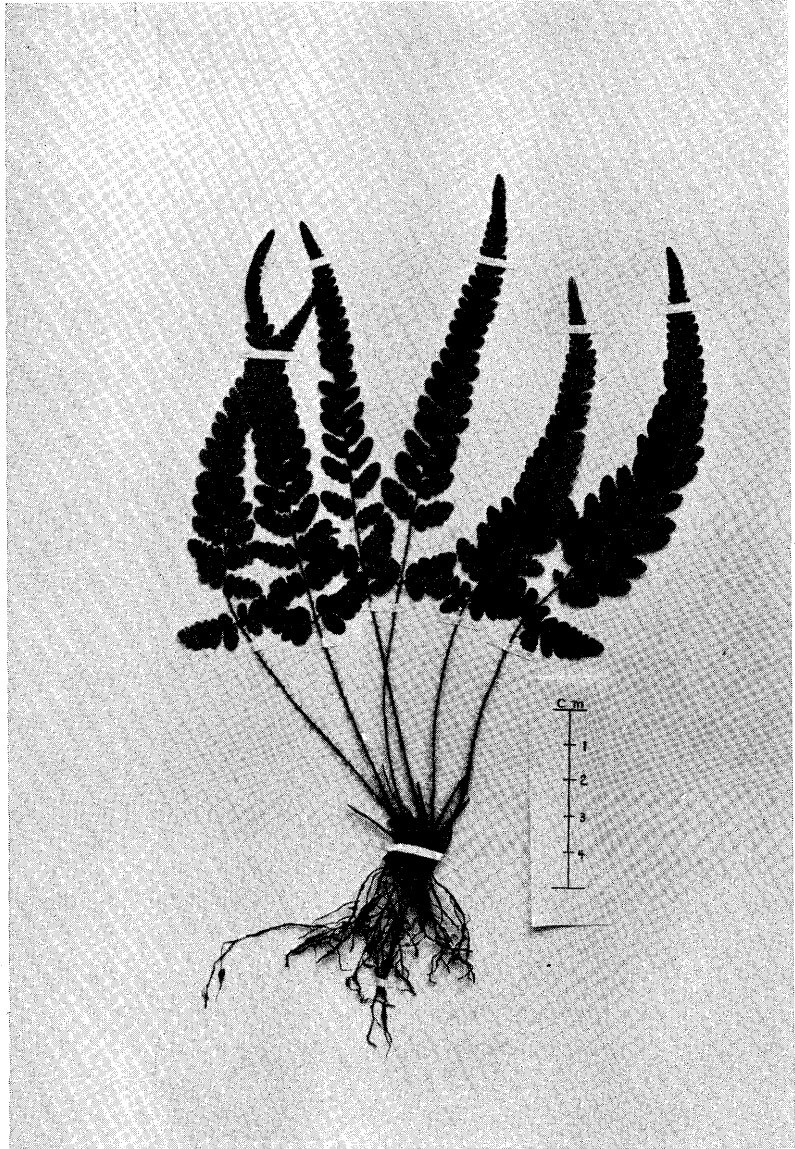


図 1. コミダケシダ *Clenitis eatonii* var. *iriomotensis*.